

虚子記念文学館投句特選句・令和六年四月

稲畑廣太郎 選

春昼の千の俳磚黙深し

大阪 徳岡美祢子

神在すやうな春暁伊勢の空

京都 西村やすし

鳥の巢にも届きたる神の息

神奈川 進藤剛至

花の塵巻き上げシユート決めにけり

兵庫 高野さち

もう仕舞ふ日数少なき館の雛

兵庫 黒田千賀子

エープリルフル笑うてあざむいて

兵庫 深尾真理子

きのふ松けふは花詠む芦屋川

大阪 石橋玲子

ほぐれゆく赤さは強さ牡丹の芽

大阪 奥野千草

大袈裟に喋り過ぎたる雪柳

兵庫 道中義臣

迫り来る作業着の腕鳥の巢

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和六年四月

久々の出番小脇に花筵	愛知	海神瑠珂	国生みの島を古代へかかり藤	兵庫	川村ひろみ
初虹や太き丸みにくぼみあり	三重	水越晴子	春光やいたるところに満ちたりて	兵庫	出雲元子
区々の色ひといろに卒業歌	大阪	棕本望生	有馬路の野山いろどる桜かな	大阪	室田妙子
墨吊す老舗の室や風光る	奈良	堀ノ内和夫	歳月を高さに邸の松の芯	岡山	奥山登志行
耳寄りな話なれども万愚節	大阪	河辺さち子	風光る高速川越え空へ消え	東京	高橋育夫
春暁が星の光を吸ひ込みぬ	兵庫	池田文子	ふらここを降りて進路の固まりぬ	大阪	立入宮子
春暁や水の面より白みゆく	京都	前悦子	咲きながら吉野の花は散りながら	大阪	藤本公子
極楽の文学学ぶ館の花	大阪	須知香代子	実年齢どこかに忘れ四月馬鹿	大阪	大橋明子
忘れ物市より蝶の飛び立ちぬ	大阪	押見げげげ	海風の紡ぐ芦屋の紅枝垂	大阪	北上美佐子
明治座の後で餡蜜至福かな	埼玉	小田毬藻	目の回る程の来客春休み	兵庫	小川孝子
花冷や早く目覚めよ虎戦士	兵庫	森岡喜恵子	ただいまの声待ちながら菜飯炊く	大阪	ふじもと言果
茎立に芯と言ふものありにけり	大阪	多田羅紀子	花の雲ふところにあり三代句碑	兵庫	平田恵
海神の宮千年の緑立つ	大阪	山田佳音	遠目にも又兵衛桜存在感	大阪	勝山禮子
一巡りして幸せな花疲	石川	辰巳葉流	花堤長さに笑顔連なりて	大阪	窪田由紀子
麓まで確と稜線山笑ふ	石川	辰巳昌彦	木蓮の触れさす白となりにけり	大阪	梶田高清
緑立つ御霊安かれ震災碑	兵庫	前田容宏	鶯の男振りなる谷渡り	奈良	河村久美子
活きのよい魚のやうな燕くる	三重	池本準一	桜湯のめでたきことのありさうな	大阪	田邊育子
木の芽吹く万の力を吸ふ朝	岡山	田口ひさえ	苦味とは男の魅力露の味噌	兵庫	宮本露子
小流やミクロの蕾花楓	岡山	鈴木千恵	チューリップ風車を回す風に揺る	兵庫	山之口倫子
目覚ましを止めて朝寝を決めてをり	三重	中島庸子	木蓮や薫香くゆる呈茶席	鳥取	前田千
若楓およそ風ぐせなど見えぬ	香川	藤田敦夫	川上へ伸びてゆきけり花の雲	東京	荒川ともひ
英訳は不可能な味蕨餅	兵庫	槌橋眞美	日がさしてレースの模様春の昼	兵庫	河合美恵子
グラウンドに流る校歌や若緑	三重	吉川博子	咲き満ちてより雄弁となる桜	大阪	杉山千恵子
はかなげや枝垂るる先の先の花	香川	三好ようこ	一息に掬ふ星くづ螢鳥賊	兵庫	齊木富子
春潮を渡り一ト日を虚子館へ	香川	渡部全子	逃げ水を追ふかに学ぶ俳句かな	兵庫	上岡あきら
			まつすぐな答しかなしチューリップ	兵庫	吉村玲子

スキップの子等の笑顔や花の下	滋賀	尾崎恵子	蝶を追ひ禁帯出のコーナーへ	静岡	いたまき芯
今ここに一世八十余の一花見	大阪	若林友子	師の庭の花との対話して佳き日	鳥取	椋 則子
パステル画描く少女に春の風	石川	白根寿子	黒々の土の香肥ゆる菜の花よ	兵庫	足立朱麻
鶯の起こす目覚めや心地よき	滋賀	田中幸湖	山寺へ息を切らして仏生会	神奈川	斉藤苑子
紫木蓮大空掴み離さざる	愛知	中野ひろみ	み吉野の残花に偲ぶ師に師在り	兵庫	岩鼻絹子
花の頃日本列島満員に	大阪	谷本房子	桜蕊ふる初恋といふ不可侵領域	神奈川	平野孤舟
超ミニに美足ちらちら春コート	奈良	山口廣世	虚子館へ花を見つつの二十分	兵庫	藤井啓子
咲き満ちる花の早さや芦屋川	兵庫	奥田好子	黄桜の咲き満つも主なき屋敷	新潟	安原 葉
逡巡の花を一気に解く日和	香川	三宅久美子	朝の間の風に香のあり山桜	兵庫	玉手のり子
囀や風が光に変はるとき	兵庫	涌羅由美	木洩れ日の詠ふ俳磚草若葉	島根	小村四温
ぼん菓子のごぼれに弥生すずめかな	兵庫	永沢達明	まつさらの巣箱へ山の日の溢る	兵庫	二瓶美奈子
享年の若き義士たち花の雨	兵庫	辻 桂湖	百景の淡路菜の花明りかな	兵庫	西村みどり
黄桜や閉ざす鉄扉に頬つけて	兵庫	辻田あづき	シヨッピングモール到着风光る	兵庫	山田翔太
菜種梅雨大作のジグソーパズル	大阪	西尾浩子	もう少し馬鹿でありたや四月馬鹿	兵庫	高市敦之
古草やまた甦へる里の道	徳島	多田まさ子	境内を白き浄土に雪柳	兵庫	伊藤秀子
春雨のあがり空澄むピアノ曲	兵庫	岸川佐江	蝌蚪の群黒き真珠の艶めきぬ	兵庫	西尾登志子
青の刻薄くのぼして春の宵	兵庫	池田雅かず	雪柳大きく揺れて風に散る	兵庫	山口弘子
公園の淋しき遊具菜種梅雨	徳島	奥村 里	こでまりの弾みて庭にリズムあり	兵庫	松浦百重
鳥の巣見つけしよりの小走りに	兵庫	河野ひろみ	春灯の館に集ひて句を学ぶ	兵庫	入谷千恵子
鳥の巣彩りに見ゆ多様性	京都	木村直子	廃屋の揺らぎて残る雪柳	兵庫	山岸正子
菜種梅雨空の明らむ一処	兵庫	中村恵美	雪柳風にこぼるるセレナーデ	兵庫	三木雅子
春落葉散り敷くままの館の庭	兵庫	山村千恵子	椿落つ曙眠る大八洲	兵庫	福田光博
风光るとき川光る川躍る	京都	山崎貴子	亀鳴くや鐘撞料に月四文	滋賀	近江堇花
若緑風に安らぎ生まれつつ	三重	松村咲子	ゆらぎつつ軒すりぬけしシャボン玉	兵庫	惠島祥一郎
寿福寺のその静けさに虚子忌かな	大阪	林 曜子	アネモネは白パンドラの匣の底	兵庫	月あんぬ
何もかも受け入れ笑まひチューリップ	愛知	小野 薫	大鉢の眠りくすぐる蝌蚪の尾よ	神奈川	小林 心

コニヤックを注ぎて春夜のヴェルレーヌ	兵庫	太平楽太郎
豆の芽や大地を割りて持ち上ぐる	熊本	貴田雄介
鹿の子の耳くるくるときよときよと	奈良	豚々舎休庵
校庭は体育の時間菜の花黄	兵庫	伊集院秀樹
誉なる句碑の産声風光る	兵庫	岩水ひとみ
流れゆく月日の早し花は葉に	石川	伊東弥太郎
花の散る風にひかりの葉かな	京都	杉森大介
筈の兆しのわかる米寿かな	和歌山	中島紀生
春袷狭きオーケストラピット	愛媛	星月彩也華
夏近しちやつちやちやの昼ご飯	滋賀	太田怒忘
虚子館の熱き静寂昭和の日	兵庫	中條 宏
畳屋の勝手知つたる花の寺	兵庫	キートスばんじょうし
空と風清らに白き日曜日	香川	葛原由起
酒蔵へ友と落ち合ふ花の駅	兵庫	阿曾宏之
花一朶一朶に宿る憂ひかな	埼玉	土井洋子
七三の分け目の青き新社員	神奈川	金子三奈乃
てて様の子よりはしやぎて潮干狩	東京	宮村土々